

| | | | | |
|----------------|--|-----------|-----------|-------------------------|
| 学校 教育 目標 | 「自立・共生・学び合い」 ○自分のよさを知り、なりたい自分を見つけられる人を育てます。(知) ○相手のよさを認め、励まし合い、地域と共に生きる人を育てます。(徳・公) ○命の大切さを知り、持続可能な社会を共に創る心と体を育てます。(体・公) ○思いやりのある、親切な行いを実践し、社会に貢献できる人を育てます。(開) | | | |
| | 創立 48 周年 | 学校長 猪熊 士朗 | 副校長 澤野 孝行 | 2 学期制 一般学級: 6 個別支援学級: 2 |
| 学校 概要 | 児童生徒数: 195 人 主な関係校: 新井小学校、上菅田笹の丘小学校 | | | |

| | | |
|--|--|---|
| 教育課程全体で 育成を目指す資質・能力 | 新井中 ブロック | 小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組 |
| 協力して学び続ける態度 思いや考えを伝えあう言葉の力 他者のため、社会のために行動する力 命を大切にし、心身の健康を管理する力 | 新井中学校 新井小学校 新井中学校桜坂 分校 新井小学校桜坂 分校 | 自ら学ぶ子ども。仲間や地域とともに学ぶ子ども。 ・小中合同授業研究会等を通じ、小中の学びの実態や各教科等の課題を共有。 ・個別の支援計画の引き継ぎをはじめ、丁寧な情報交換を元に、特別支援教育を 推進。 ・地域学校協働本部と連携した「小中合同キャリア教育体験学習」等の取組の推 進。 ・学校運営協議会を母体とした、地域に開かれた学校運営の協働。 |

| | |
|----------------|---|
| 中期 取組 目標 | <ul style="list-style-type: none"> ○学校教育目標を実現するために、全教職員が学校運営に主体的に参加し、一丸となって、教育活動を行います。 ○学力向上を図るために、基礎基本の習得を重視し、協働して学ぶ生徒の育成をめざします。 ○体力の向上と、心身ともに健康な人を育成するために、持続可能で調和の取れた教育活動を行います。 ○持続可能な社会づくりのために、地域と協働する学校づくりをめざします。 ○横浜で一番アットホームな学校をめざします。 |
|----------------|---|

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|--------------------|---|
| 知 授業改善 | 横浜市の学力・学習状況調査、全国学力・学習調査を活用し、本校の傾向と生徒の課題を見出し生徒の実態を分析して学力向上アクションプランを作成し、エビデンスに基づいて「わかる授業」の実現を目指す。教職員同士で相互の授業を見学し、意見交換をすることで、教育実践の質を高める。指導と評価の一体化を意識させ、適切な評価を実践するとともにフィードバックをし、授業改善に役立てる。 |
| 徳 人権教育 | 「だれもが、安心して、豊かに、生活できる学校」の実現のために、思いやりの心を育成し親切な行動を促すとともに、持続可能な社会の一員として、自らの役割を意識させ自己有用感を高める。「心を整える」指導を実践し、自立できる生徒、多様性を理解し少数者の立場にたって考えることのできる生徒を育成する。今年度も人権講演会を実施し、教職員、生徒の人権意識を高める。 |
| 体 健康教育 | 体力の向上を図るために、保健体育の授業や体育祭の取組で生徒一人ひとりの意欲を引き出す。感染症への対策、怪我の未然防止などを指導し、実のあるものとする。新体力テストの結果とアンケート調査結果をもとに、今後の運動指針を作成して日常生活に取り入れ、よりよい運動習慣や生活習慣が身につくよう支援する。年間通して心身ともに健全な育成を目指し、計画的、持続的に活動の質と量を高める。 |
| 公開 ESDの推進 | 今年度も生徒会活動を中心として、SDGsの実践を行う。地域学校協働本部と連携し、「持続可能なまちづくり」の実現に取り組む。環境保健委員会、図書委員会や地域のグリーンサポーターと共にこれまで取り組んできたSDGsの取組を広げていく。教科、特別活動等での学習を、ESDの視点で価値づけ、その成果を評価し、地域に広げていく。学校保健委員会の活動も定着し地域学校協働本部との連携もできつつあるので、今後も継続していく。 |
| いじめへの対応 | 今年度も今まで通りいじめ防止基本方針に基づき、組織的に対応することを徹底し、いじめの撲滅を目指す。生徒同士が心を通い合わせることができるよう、思いやりの心を育む教育活動を行う。日頃から生徒に寄り添って信頼関係を築き、生徒が相談しやすい環境を作る。「いじめ」を解決するときには、全教職員の力を結集し、必要に応じて外部機関と連携して迅速に対応する。昨年度は早期発見、早期解決、外部との連携がかなりうまくできていたので継続させる。 |
| 人材育成・ 組織運営(働き方) | 人材の育成について、自分たちで研修課題を設定し、職員研修を企画・運営する。校務分掌に基づいて業務を遂行することがOJTとなるように、教職員が全体として運動するように仕掛けていく。法律、通知等の意味をしっかりと理解し、無駄を省くとともに部活動においては、ガイドラインに基づいた運営を行う。今年度は教務主任の異動で校務分掌を刷新し、年度初めは負担増ではあるが人材育成のチャンスととらえ、チームワークの良い職員集団を作っていく。 |
| 地域連携 | 学校の地域連携組織と地域学校協働本部(A.S.C.C)との協働を核とし、さまざまな地域団体・個人と、子どもの教育のために連携していく。その成果をしっかりと評価し価値づけていく。その視点としてESD×SDGsを推進することを重視する。学校・家庭・地域連携事業の計画、実践も行う。学校運営協議会の立ち上げから地域学校協働本部との連携も非常にうまくいっているため今年度も継続し更に充実させる。 |
| 児童生徒指導 | 生徒一人ひとりの心に寄り添って信頼関係をつくり生徒理解に努める。報告・連絡・相談・確認の徹底を図り、組織的に生徒指導にあたる。生活点検アンケートやY-Pアセスメント、教育相談等、定期的に生徒の様子を把握し、生徒の変化に対して気付きやすい環境をつくる。外部機関と連携し家庭の支援の必要性も加え、多面的に指導にあたる。教職員全員でチームでの指導を徹底させ、学校全体の秩序を守り、生徒達の健全育成につなげる。 |
| 特別支援教育 | 特別支援コーディネーターを中心に、一人ひとりの発達や課題についての共通理解を図り、適切な指導・支援ができる体制を整える。特別支援教室の効果的な運営に努め、外部機関や、さまざまなリソースを活用し連携を強化する。教職員の生徒理解、発達への理解を高めるよう研修を行う。生徒のみならず家庭の状況を把握し、場合によっては外部機関との連携も行い支援していく。今年度は校内ハートフル事業実施校となったので、より充実した支援教育を行えるよう効果的に活用する。 |